



2027年卒 理系学生の就職先企業（専攻分野別）

2026年8月

株式会社キャリアタス / キャリタスリサーチ

調査概要

2027年卒・理系学生の就職先企業について、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生の就職先との比較などを通して、その特徴を分析した。

巻末には、参考データとして、7月までの活動状況の振り返りのデータや、経年比較のデータなどを紹介する。

<目次>

1. 就職決定業界	P 3
2. 就職決定職種、専攻分野との関連	P 4
3. 就職決定企業への応募ルート、当初志望度	P 5
4. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング	P 6
5. 就職決定企業のインターンシップ等*参加状況	P 7
6. 就職決定企業に決めた理由	P 8
7. 初回内定時期	P 9
8. 就職先を決めて就職活動を終了した時期	P10

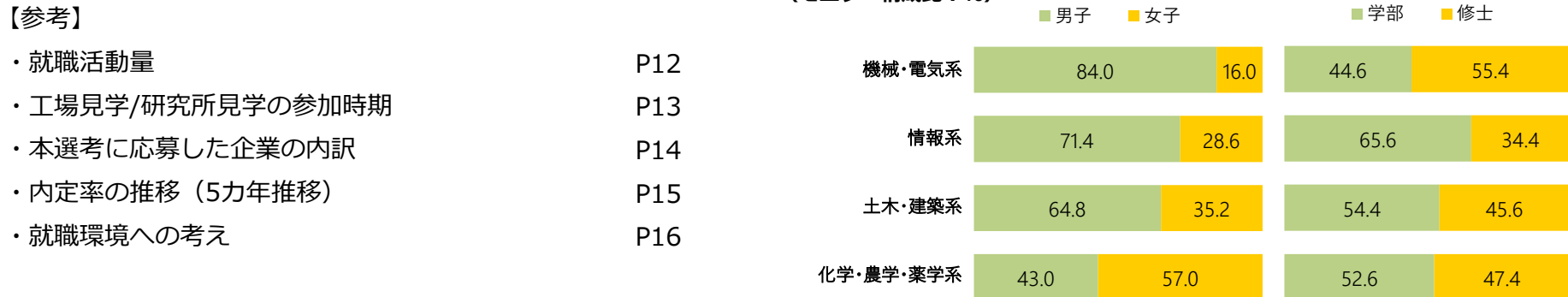
<調査概要>

調査対象 : 2027年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生
 サンプル : キャリタス就活 学生モニター2027
 調査方法 : インターネット調査法

	第8回定期調査	第10回定期調査
調査時期	2026年5月	2026年7月
回答者数	1,034人	1,058人
理系全体	321人	330人
機械・電気系	60人	58人
情報系	85人	91人
土木・建築系	46人	49人
化学・農学・薬学系	95人	97人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

(モニター構成比：%)



・就職活動量	P12
・工場見学/研究所見学の参加時期	P13
・本選考に応募した企業の内訳	P14
・内定率の推移（5力年推移）	P15
・就職環境への考え	P16

*就業体験を含まない1日以内のプログラムも含めて調査

1. 就職決定業界(上位業界)

- 機械・電気系学生は、1位「電子・電機」(30.4%)、2位「自動車・輸送用機器」(15.2%)、3位「機械」(13.0%)と続き、メーカーが上位。
- 土木・建築系学生は「建設・住宅・不動産」(66.7%)に集中。情報系学生は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(34.9%)が最多。
- 「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」は情報系のみならず、化学・農学・薬学系や文系でも上位業界に入っている。

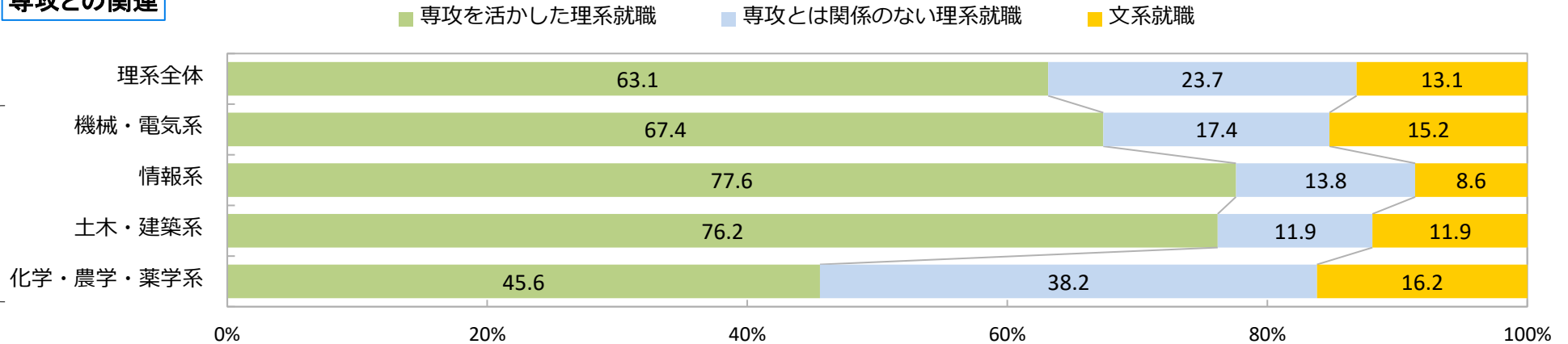
(%)													
理 系												(文 系)	
			機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系				
1	建設・住宅・不動産	15.5	電子・電機	30.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	34.9	建設・住宅・不動産	66.7	医薬品・医療関連・化粧品	15.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.3	
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5	自動車・輸送用機器	15.2	電子・電機	12.7	運輸・倉庫	11.9	素材・化学	14.5	銀行	9.5	
3	電子・電機	11.0	機械・プラントエンジニアリング	13.0	情報・インターネットサービス	11.1	銀行	4.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.1	建設・住宅・不動産	6.2	
4	自動車・輸送用機器	5.7	建設・住宅・不動産	6.5	通信関連	7.9	電子・電機	7.2	自動車・輸送用機器	7.2	調査・コンサルタント	4.6	
5	機械・プラントエンジニアリング	4.9	鉄鋼・非鉄・金属製品		調査・コンサルタント	4.8	調査・コンサルタント		機械・プラントエンジニアリング		運輸・倉庫		
6	調査・コンサルタント	4.5	調査・コンサルタント	4.3	証券・投信・投資顧問	2.4	エネルギー	5.8	建設・住宅・不動産	5.8	保険	4.4	
7	素材・化学		保険		建設・住宅・不動産		官公庁・団体		電子・電機		官公庁・団体		
8	医薬品・医療関連・化粧品	4.3	精密機器・医療用機器	3.2	自動車・輸送用機器	4.3	水産・食品	4.3	調査・コンサルタント	4.3	その他サービス	4.0	
					エネルギー		ゴム・ガラス・セメント・セラミックス		官公庁・団体		マスコミ		
									マスコミ				水産・食品

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

2. 就職決定職種、専攻分野との関連

- 理系全体の6割以上（63.1%）が、専攻を活かした理系就職であると回答。情報系と土木・建築系で高い（77.6%、76.2%）。
- 決定職種は、情報系学生は「IT系」、土木・建築系は「建築・土木設計系」に集中（65.5%、60.5%）。機械・電気系学生は「研究・開発系」が高いなど（58.5%）、専攻分野との結び付きが強い。化学・農学・薬学系は他の専攻分野に比べ分散している。

専攻との関連



就職決定職種

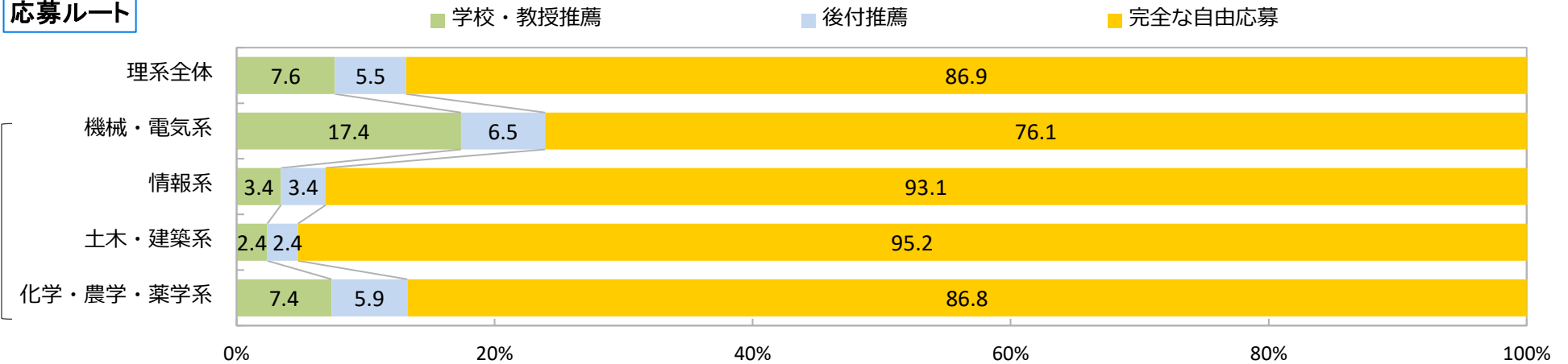
理 系						(文 系)		(%)
		機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系			
1	IT系	研究・開発・設計系	IT系	建築・土木設計系	研究・開発・設計系	営業系		
		58.5	65.5	60.5	40.3			38.0
2	研究・開発・設計系	生産・製造・品質管理系	研究・開発・設計系	営業系	IT系	IT系		
		14.6	13.8	10.5	12.9			23.7
3	建築・土木設計系	IT系	クリエイティブ系	専門・スペシャリスト系	専門・スペシャリスト系	事務・管理系		
		12.2	5.2	7.9				14.6

※「専門・スペシャリスト系」＝コンサルタント、薬剤師、管理栄養士などの専門職

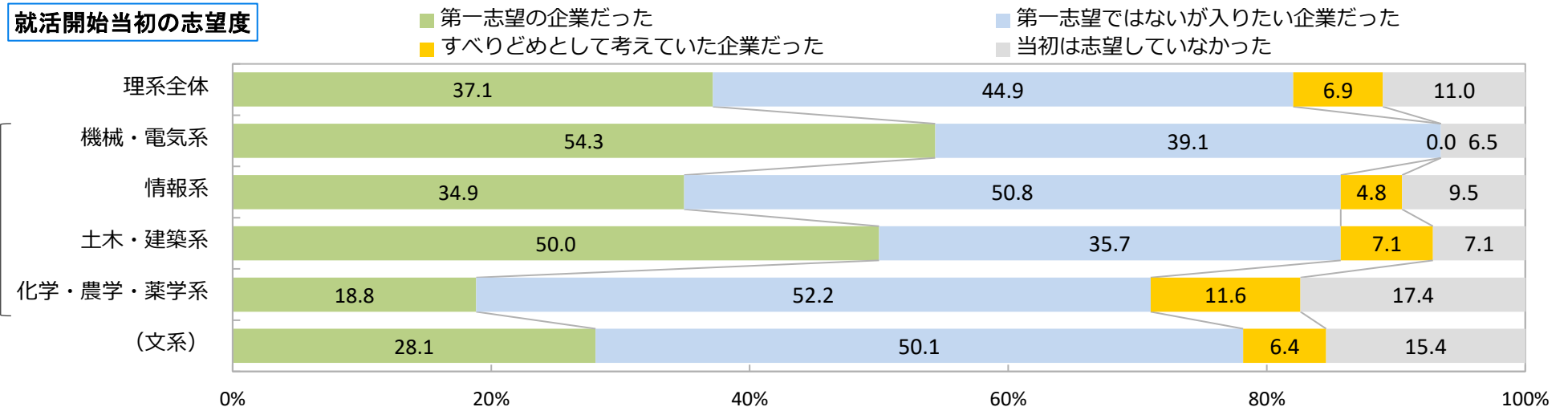
3. 就職決定企業への応募ルート、当初志望度

- 機械・電気系は「学校・教授推薦」での就職決定者が他より多く、2割近い（17.4%）。第一志望に決定した割合も比較的高い（54.3%）。
- 土木・建築系と情報系は自由応募が9割以上を占めるなど（95.2%、93.1%）、専攻分野によって活動スタイルに違いが見られる。

応募ルート

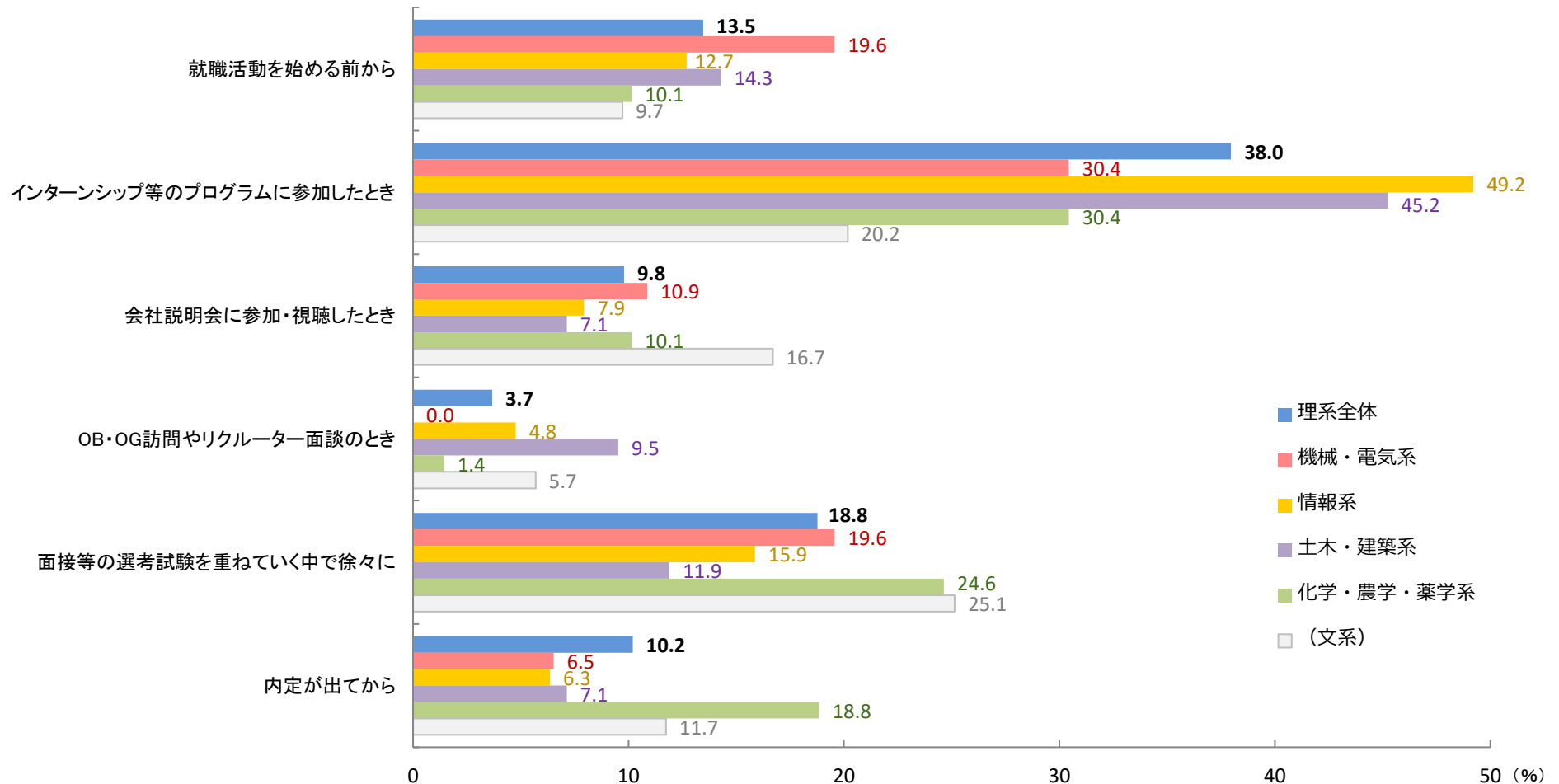


就活開始当初の志望度



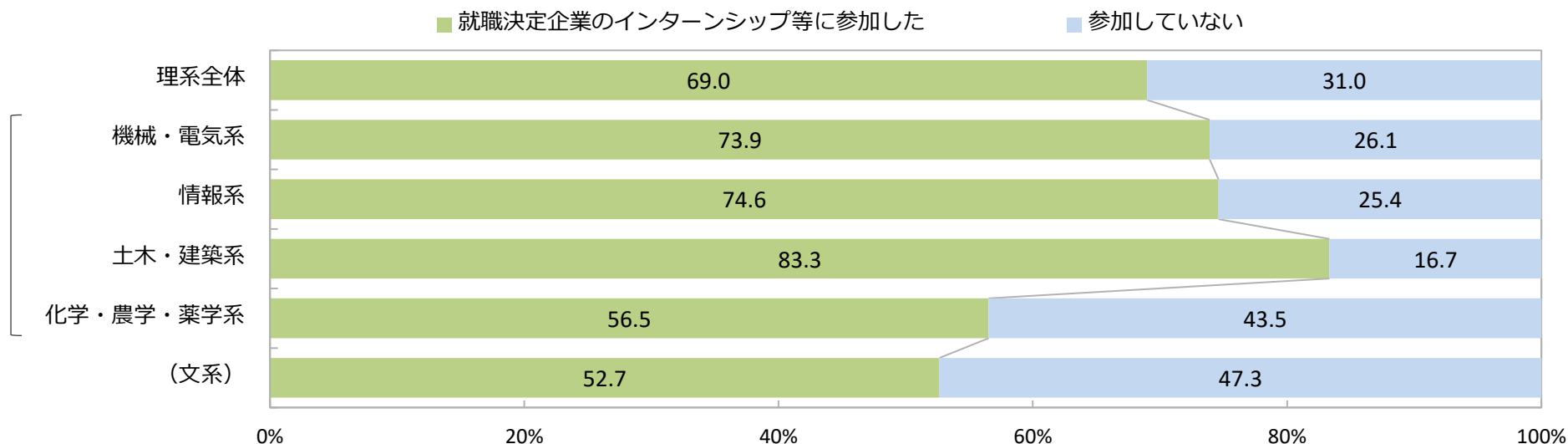
4. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング

- 理系全体では「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」が最多（38.0%）。特に、情報系、土木・建築系で高い（49.2%、45.2%）。
- 機械・電気系は「就職活動が始める前から」が他の専攻分野より高い（19.6%）。
- 化学・農学・薬学系は「面接等の選考を重ねていく中で徐々に」と「内定が出てから」が高く、他の専攻に比べタイミングが遅め。



5. 就職決定企業のインターンシップ等参加状況

- 理系学生の7割近くが、就職決定企業のインターンシップ等への参加経験を有する（69.0%）。文系（52.7%）を大きく上回る。
- 専攻分野別では、土木・建築系が8割台と多く（83.3%）、化学・農学・薬学系学生は比較的少ない（56.5%）。
- 理系は文系に比べ、長期プログラムに参加していた割合が高い。特に、情報系、機械・電気系で「2週間以上」の経験率が高い（25.5%、20.6%）。



就職決定企業のインターンシップ等参加日数（複数回答）

	理系					(文系)
	理系	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	(文系)
1日以内のプログラムに参加	38.5	23.5	36.2	31.4	61.5	61.0
2～4日間のプログラムに参加	25.4	26.5	21.3	37.1	20.5	26.8
5日間程度のプログラムに参加	27.8	38.2	29.8	31.4	15.4	15.7
2週間以上のプログラムに参加	16.6	20.6	25.5	8.6	7.7	2.1

※就職決定企業のインターンシップ等に参加した学生を分母に、参加者の割合を算出

6. 就職決定企業に決めた理由

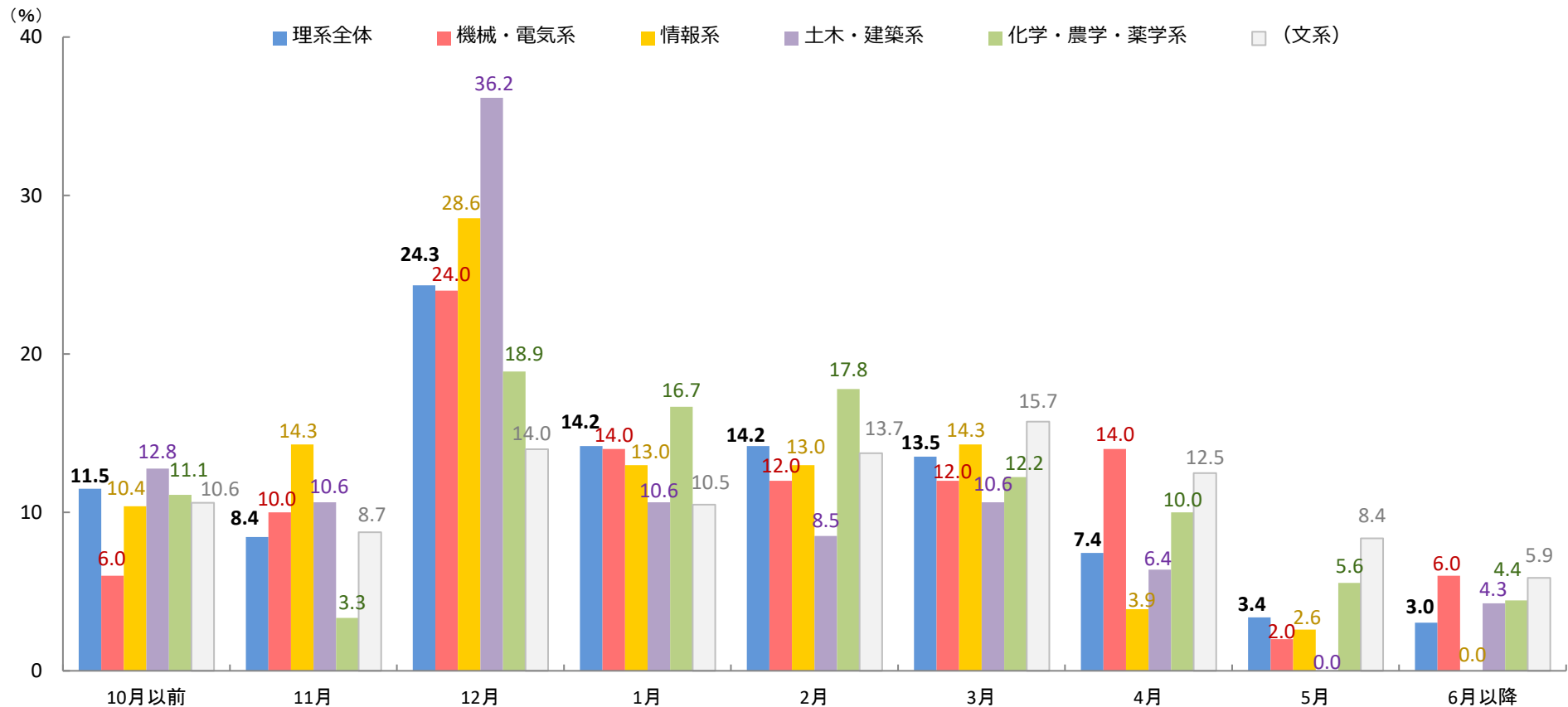
- 文系理系ともに、1位は「給与・待遇が良い」。文理で共通の条件となっている。
- 理系学生は文系よりも「将来性がある」の順位が高いのが特徴的（理系2位、文系9位）。「大企業である」や「有名企業である」も比較的高い。
- 上位10項目の顔ぶれに専攻分野による極端な差は見られないが、化学・農学・薬学系では「希望の勤務地で働ける」の順位が他より高い（1位）。

※5つまで選択 (%)

	理 系					(文 系)				
	機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系			
1	給与・待遇が良い	40.0	大企業である	52.2	給与・待遇が良い	46.0	給与・待遇が良い	31.9	給与・待遇が良い	36.7
2	大企業である	32.7	有名企業である	45.7	将来性がある	39.7	有名企業である	33.3	希望の勤務地で働ける	31.2
3	将来性がある		給与・待遇が良い	43.5	福利厚生が充実している	34.9	社会貢献度が高い	30.4	希望の勤務地で働ける	28.6
4	有名企業である	30.6	将来性がある	30.4	希望の勤務地で働ける	28.6	大企業である	31.0	社会貢献度が高い	27.3
5	希望の勤務地で働ける	27.3	希望の勤務地で働ける	26.1	有名企業である	27.0	将来性がある	27.5	福利厚生が充実している	26.6
6	社会貢献度が高い	22.4	業界内の順位が高い	23.9	大企業である	25.4	職場の雰囲気が良い	23.8	有名企業である	26.4
7	福利厚生が充実している		福利厚生が充実している	21.7	仕事内容が魅力的	23.8	希望の勤務地で働ける	19.0	職場の雰囲気が良い	26.2
8	業界内の順位が高い	19.2	業績・財務状況が良い	17.4	業界内の順位が高い	19.0	福利厚生が充実している	16.7	有名企業である	25.9
9	職場の雰囲気が良い	18.8	社会貢献度が高い	15.2	休日・休暇が多い		福利厚生が充実している	18.8	将来性がある	24.4
10	仕事内容が魅力的	16.3	休日・休暇が多い	13.0	教育・研修制度が充実している	17.5	業績・財務状況が良い	14.3	希望の職種に就ける	20.4
			世の中への影響力が大きい				世の中への影響力が大きい			

7. 初回内定時期（内々定を含む）

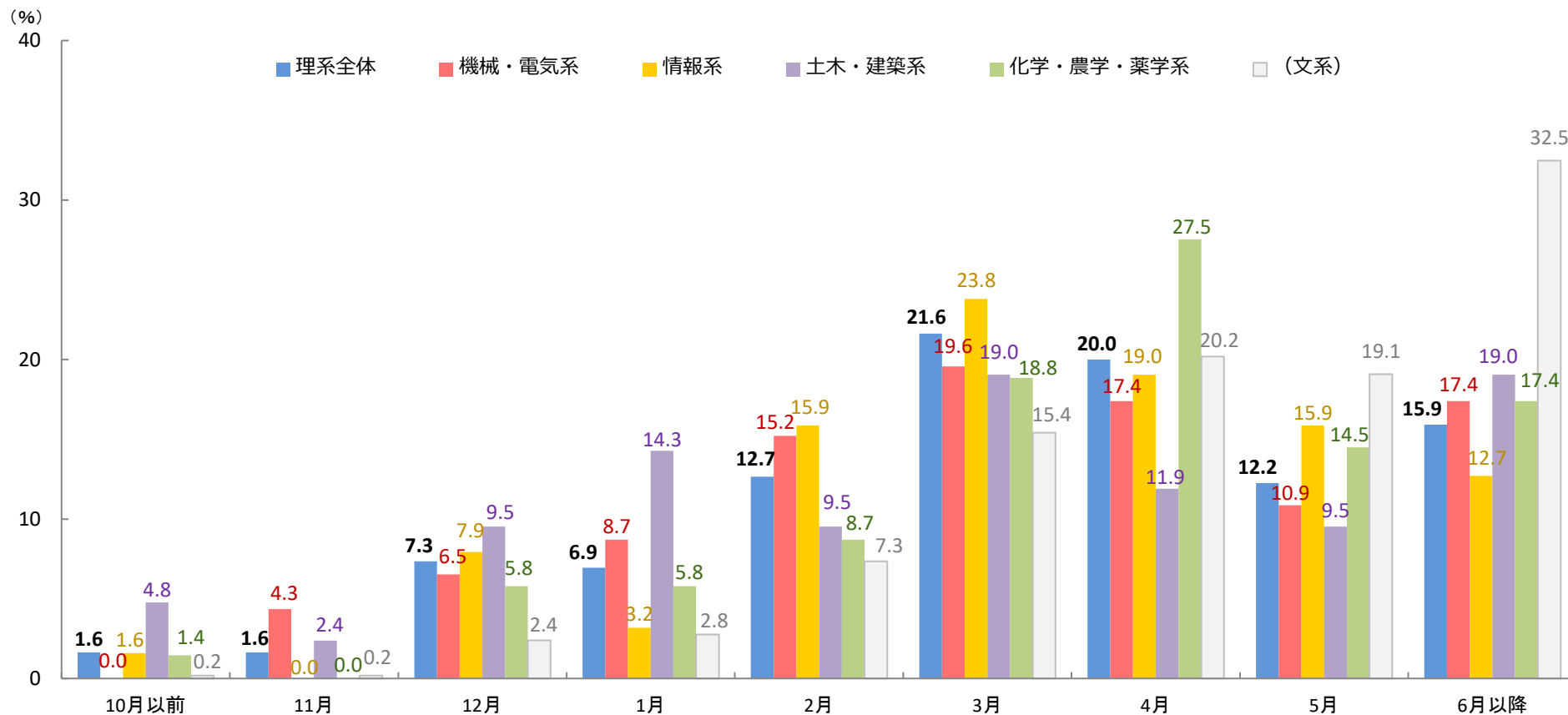
- 7月1日時点で内定を得ている学生に、初めて内定を得た時期を尋ねた。理系は文系よりも早い時期の数字が高い傾向。文系の最多は「3月」。
- 理系学生の初回内定取得が多いのは「12月」（24.3%）。いずれの専攻分野も12月が最多だが、土木・建築系は特に集中している。
- 化学・農学・薬学系は比較的分散している。機械・電気系は「4月」「6月以降」が他より多く、推薦利用の影響もあるとみられる。



※7月1日時点の内定取得者が回答

8. 就職先を決めて就職活動を終了した時期

- 理系は「3月」が最多で（21.6%）、「4月」も多い（20.0%）。初回内定は「12月」が多かったが、本命企業の結果が出たのが3月や4月という学生が比較的多かったと推測できる。
- 機械・電気系、情報系、土木・建築系は「3月」が最も多く、化学・農学・薬学系は「4月」に集中している（27.5%）。
- 土木・建築系は年内や「1月」が他より多く、プレ期に4割が終了（計40.5%）。専攻分野によって終了時期にも特徴が見られる。



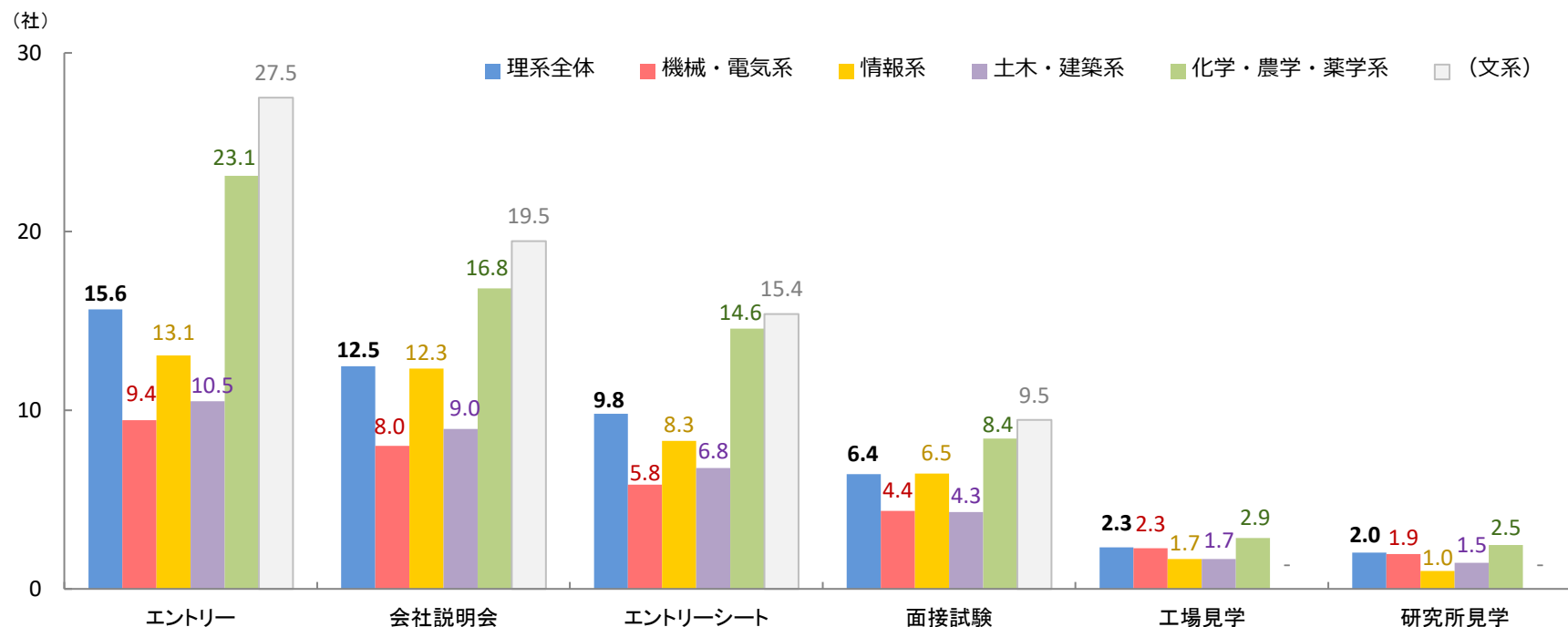
※7月1日時点の就職先決定者が回答

コメント集：就職先決定にあたり、特に決め手となった点

	決定業界	属性
今行っている研究と地続きになっているから。	電子・電機	機械・電気系／男子
規模、財務状況、企業理念、将来性、待遇など、重視する項目で概ね高水準だった。	非鉄金属	機械・電気系／男子
社会貢献度が高く胸を張って働ける環境、手厚い福利厚生、安定性が高いこと、希望の勤務地から転勤が一切ないこと、希望職種で働けること。	エネルギー	機械・電気系／男子
工場見学と、社員の人との座談会で実際の仕事内容や雰囲気が具体的にになり、より志望度が高まった。	機械・プラント	機械・電気系／女子
全国転勤もなく、実家からあまり離れていない距離で勤務できるため。	運輸	機械・電気系／男子
金融専門職のキャリアが歩めること。	生命保険	機械・電気系／男子
やりたい職種に就けることが内定時点で決まっていることと、スキルが身につけられそうだったこと。スキルが身につけば、もし転職することになっても転職先が広がると思った。	コンサルティング	情報系／女子
地域に密着した企業である点。	情報処理・ソフトウェア	情報系／男子
懇親会などで社員の人が優しく、人柄も似た人が多いと感じたため。	情報処理・ソフトウェア	情報系／女子
インターンシップで社員の方の人柄がよかった。リモートワークが可能であること。	電子・電機	情報系／女子
選考過程で社長と面接する機会があり、そこで伺った経営哲学に非常に共感した。	精密機器	情報系／男子
専攻を活かせる設計職に就けることが1番の決め手。次いで、建設業では珍しく転勤が少なく、高水準の給与であること。また、インターンの際に職場の雰囲気を实感し、馴染むことができると感じたことが後押しになった。	建設・住宅・不動産	土木・建築系／男子
同じ業界の別の企業のインターンにもいくつか参加したが、一番自分に合った雰囲気を感じた。	運輸	土木・建築系／女子
福利厚生が充実しており、額面以上の生活ができると思った。	建設・住宅・不動産	土木・建築系／男子
理系の素養を活かしつつ国際的に働けるポジションが理想だった。	機械・プラント	化学・農学・薬学系／男子
実家から通える距離にあり、将来的に両親のサポートを得やすいと思ったため。	自動車・輸送用機器	化学・農学・薬学系／女子
興味のある分野での研究職。	食品	化学・農学・薬学系／男子
福利厚生が充実しているのと、給与が高いことがかなり大きな決め手となった。	電子・電機	化学・農学・薬学系／女子
有名な製品を出していることや、研究職としての雇用が確定している点。	医薬品	化学・農学・薬学系／女子

【参考】就職活動量(平均社数／7月時点)

- 理系学生の活動量（社数）は、すべてのフェーズにおいて文系を下回り、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも機械・電気系や土木・建築系学生は活動量が少なく、化学・農学・薬学系は比較的多い。
- 特に、エントリー社数において差が目立ち、化学・農学・薬学系は20社を超え、文系学生に近い社数を示している。



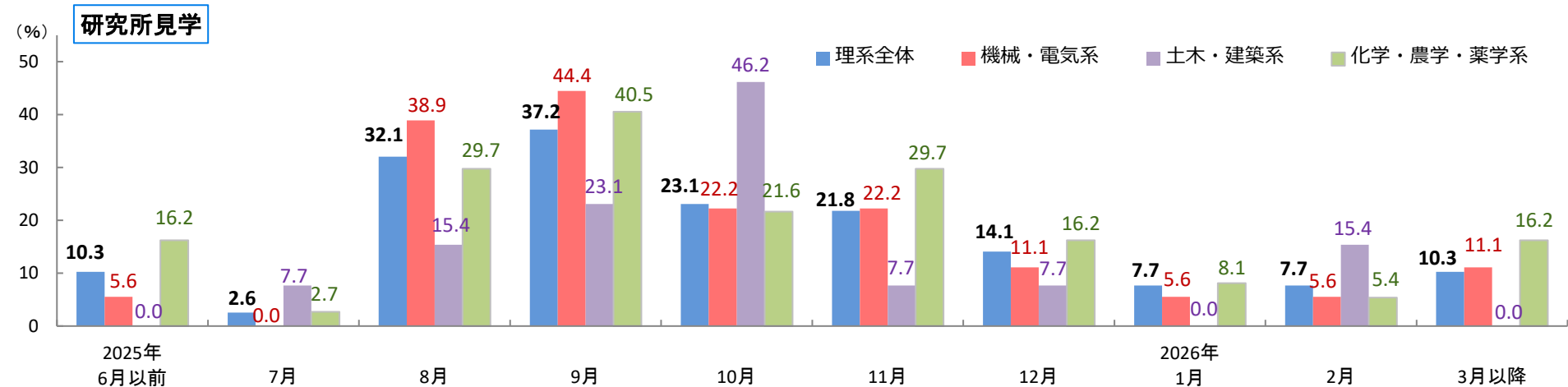
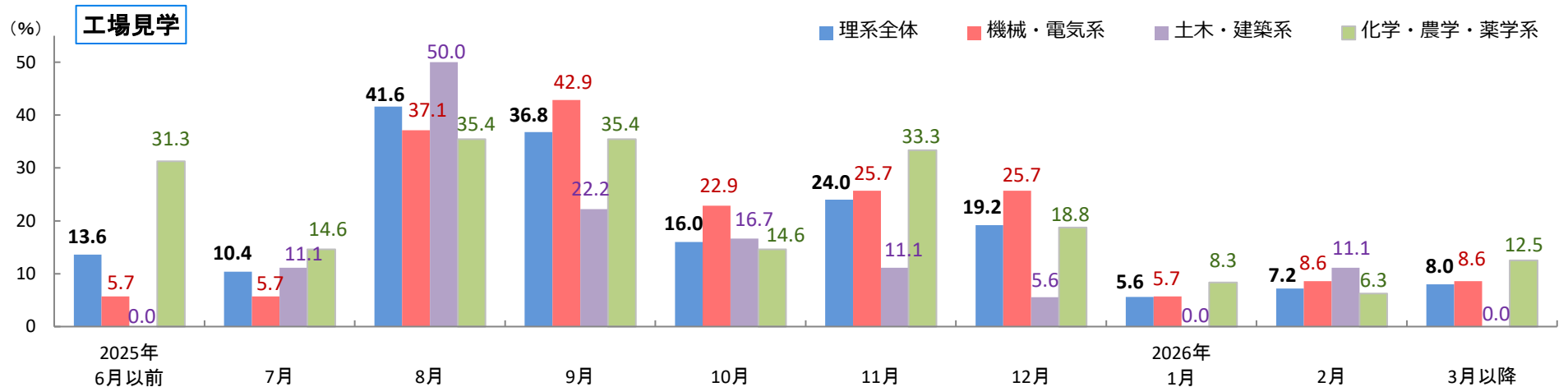
【経年比較】

	エントリー	会社説明会	エントリーシート	面接試験	工場見学	研究所見学
2027年卒者	15.6社	12.5社	9.8社	6.4社	2.3社	2.0社
2026年卒者	20.6社	13.0社	9.4社	6.0社	2.5社	2.1社
2025年卒者	18.6社	12.2社	10.1社	6.7社	2.2社	1.7社
2024年卒者	18.2社	12.1社	10.2社	6.8社	2.1社	1.9社
2023年卒者	18.8社	12.8社	11.7社	7.2社	2.0社	1.5社

※経年の社数は、「理系全体」の5カ年の数値(各年7月時点)

【参考】工場見学/研究所見学の参加時期

- 工場見学、研究所見学ともに「8月」と「9月」が高く、夏季インターン等のプログラムの一環で参加するケースが多いようだ。
- 秋から冬にかけて2割前後で続き、夏季プログラム後のフォローとして実施する企業も一定数あるのだろう。広報解禁後の3月以降の参加は少ない。

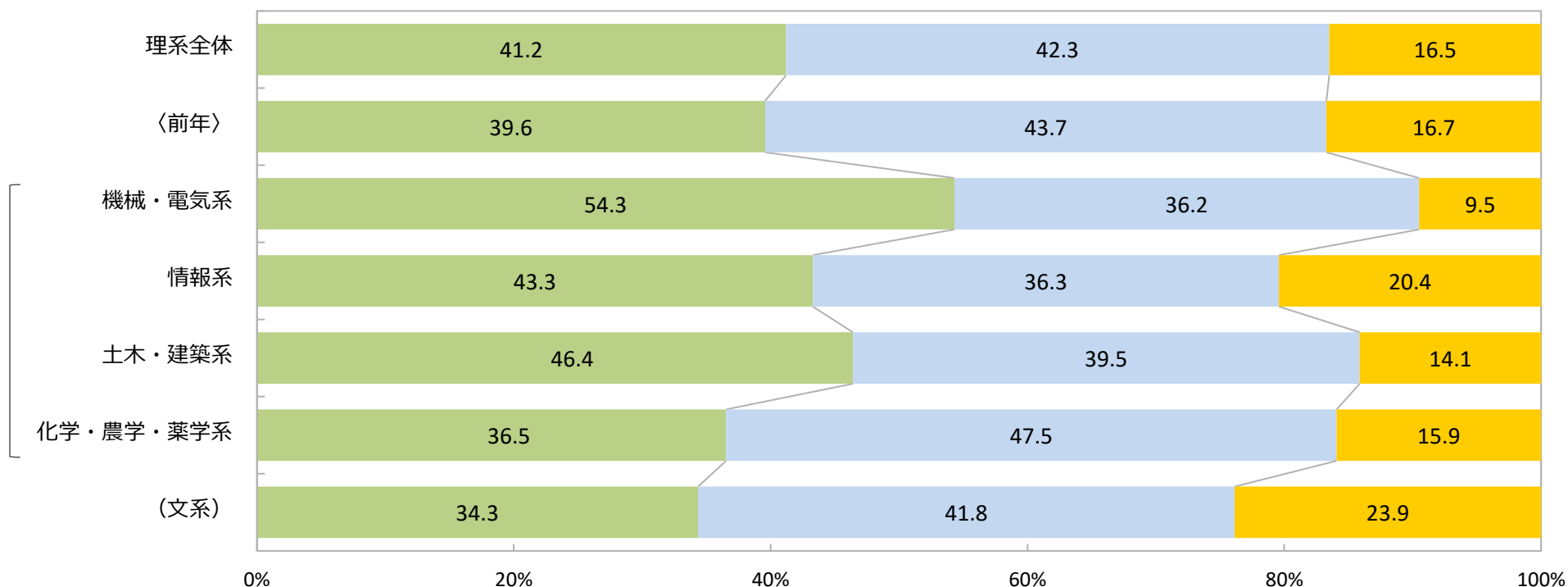


※情報系は参加経験者が少ないため割愛

【参考】 本選考に応募した企業の内訳

- 「インターンシップ等参加企業」と「2月以前から興味を持っていた企業」の合計が8割以上を占める（計83.5%）。文系（計76.1%）に比べ多い。
- 特に、機械・電気系において、プレ期に出合ったり、興味を持った企業の占める割合が高い（計90.5%）。
- 「インターンシップ等参加企業」に絞っても、機械・電気系が最も高く（54.3%）、次いで情報系（46.4%）。

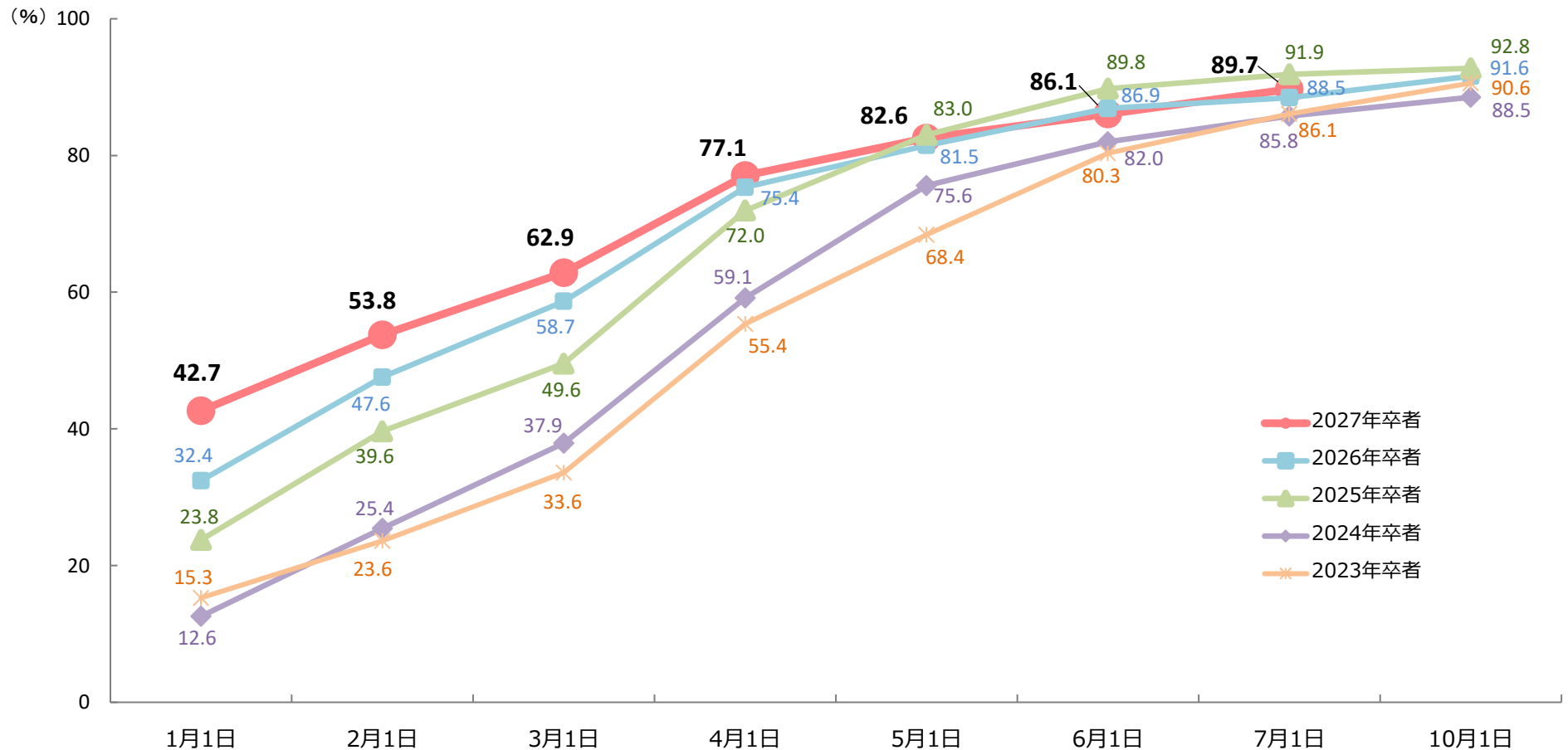
- インターンシップ等のプログラムに参加した企業
- インターンシップ等には参加していないが、2月以前から興味を持っていた企業
- 3月以降に興味を持った企業



※ES提出など本選考に応募した企業の社数の内訳

【参考】 内定率の推移(理系全体/5カ年推移)

- 理系学生（理系全体）の内定率の推移を見ると、この5年で早期化が大きく進んだ様子が表れている。
- 2027年卒は、1月調査で4割を超え（42.7%）、3月の採用広報解禁時点で6割超（62.9%）。2023年卒（33.6%）より30ポイント近く高い。
- ただ、序盤はかなりハイペースで進んだが、徐々にペースダウンし、4月以降の伸びは緩やか。



【参考】就職環境への考え(売り手市場の実感)

- 今年の就職環境を「売り手市場」と感じる理系学生は6割を超える(計63.6%)。前年調査(計62.1%)よりやや多い。
- 機械・電気系学生は「売り手市場」と回答する割合が7割を超え(計70.7%)、第一志望の企業に内定している学生が多いことや、学校推薦での決定者が他の専攻分野より多いことなどと相関が見られる。(5ページ)

■ 完全に売り手市場だと思う ■ やや売り手市場だと思う ■ どちらでもない ■ あまり売り手市場だと思わない ■ まったく売り手市場だと思わない

